

授業科目名	アカデミック・コミュニケーション1-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10011	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	これから、論文執筆や口頭発表の機会が増えるみなさんと、単なる発表のテクニックではなく、専門的な学問の内容を伝える際に必要なことは何かを一緒に考えます。論拠を持って、事実と意見を分けて、時には気持ちをこめて、伝えるためには、どんな準備が必要なのでしょう。		
備考	(資源開設)平成 23 年度までの「テクニカルライティング」、および平成 26 年度以前に総合科目 II の 1C10081 アカデミック・コミュニケーション1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション2 の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	大学は、レポートや論文などの書き物、セミナーや学会での発表などのプレゼンテーション、研究室内外での様々な議論や討論などを通して、学術的な内容でのコミュニケーションを行う場と考える事もできます。そこで、科学や事実を伝えるために必要な考え方、考えたり伝えたりすることとはどのような事なのかを探ります。また、気持ちよく伝えるために役立つスキルについても解説します。		
到達目標	1 学問的内容を伝えるための基本を理解する。 2 コミュニケーションスキルを習得する 3 分かり易く伝えるための方法を習得する		
キーワード	表現, コミュニケーションスキル		
各回授業計画	<p>第1回【4月17日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [事実を伝える、科学を伝える] 伝えたいのはデータだけでですか、データに基づくインフォメーションですか。データとインフォメーションについて考えます。</p> <p>第2回【4月24日 阿部淳一 ビーター 生命環境系】 [学問の源流 (語源から考える)] 系や技術系の専門用語には、ラテン語やギリシア語を語源とするものが多い。ヨーロッパ人とのコミュニケーションでは語源を知っていることが常識とされている。</p> <p>第3回【5月8日 掛谷英紀 システム情報系】 [学問とは何か、科学とは何か] 科学と似非科学の境界を定義づけることで、学問に携わる者が守るべきルールを論じます。</p> <p>第4回【5月15日 掛谷英紀 システム情報系】 [様々な知識の融合] 現実社会における複合的な問題に対して、種々の専門分野に細分化された学問の知見をどう生かしていくかを考えます。</p> <p>第5回【5月22日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [発想法] 今学期の講義では、伝えるための方法や、そもそも伝えるとはどのような事なのかを考えます。第一回は、考えを言葉にしてまとめることに焦点をあてます。</p> <p>第6回【5月29日 重松篤美】 [ビジネス社会に於けるコミュニケーション例] ビジネス社会に於ける特異なコミュニケーション形態を、幾つかの実例を見ながら学びます。</p> <p>第7回【6月5日 宮崎明世 体育系】 [動きを伝える、教える] 動きを人に伝えるのは難しいもの。体育の授業では「運動を人に伝える」ことが大切な要素になる。教科教育の視点から「伝える」を考える。</p> <p>第8回【6月12日 森山裕充 東京農工大学】 [聞き手を納得させるには] プレゼンテーションの目的は、聞き手を納得させることです。ケーススタディにより様々な場面や状況を想定したプレゼン方法について考えます。</p> <p>第9回【6月19日 巖岩奈々 心理カウンセラー】 [伝えたいこと、伝えること、そして伝わること] コミュニケーションには送り手と受け手がありますが、相手に思い通りに伝える事を阻む、いくつかの障壁があります。伝えたいことを明確化、言語化するまでを中心に講義します。</p>		

	<p>第10回【6月26日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [対面でのコミュニケーションのスキル] 聴き方や伝え方には人それぞれの癖があります。効果的に聴き、伝えるためのスキルを紹介します。</p> <p>第11回【7月3日】 期末試験</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション2を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験 (70%) B 授業中の質問など積極的な発言 (30%) 出席率 70% 以上であること
授業外における学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスアワー・連絡先	月曜 3 限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	なし

授業科目名	グローバルリーダー養成講座		
科目番号	1G24014	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	春 AB 火 5
担当教員	竹村 富士徳		
授業概要	自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学の目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。・文化や慣習の違いの仕組み、価値観や信念形成の仕組みについて理解する。また、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。		
備考	(体育開設) 【受入上限数 120 名】		
授業形態	講義及び演習		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	自分の価値観や自分軸を演習やワークを通して再発見し、自分の人生の目的を考えた上で大学の目標を設定する。その目標達成のための重要事項と考え、それらを優先した計画立案を行う。さらには、人との信頼関係の構築の仕方、相手を理解することの大切さについて、ロールプレイなどを通して体得し、グローバルに相乗効果を発揮することを考え、自分が目指すべきグローバルリーダー像について整理し、理解を深める。グローバルスキルについても、文化や慣習の違い、価値観や信念形成の仕組みについて理解し、空間や時間概念、思考概念などが、アジア諸国、アメリカ、イスラム教圏の国と比較し、どのように違うか認識を深める。考えるための素材として、全世界の企業でリーダーシップ研修等で多く活用されている「7つの習慣」を活用する。		
到達目標	授業を通して、グローバルリーダーとしてふさわしい、以下のようなマインドセットが大切であることを理解する。まず、自分の価値観をしっかりと整理して自分軸を持ち、人生の目的、自分の目標やその目標に対する計画の実行を行える状態になること。(それができなければ、世界に出て自分が何者か、何を目指しているか軸がぶれ、グローバルに戦うことができない。)そのうえで、相手にとっても自分にとっても望むべき結果が何であるかを理解し、相手について十分理解する。自分の強み、相手の強みを生かし、相乗効果を発揮できるようになる。(例えば、自分が日本人としての強みを生かし、現地国ならではの特質を生かした商品づくりを行う等。)		
キーワード	主体的、協働的、リーダーシップ、人格主義、グローバルマインド		
各回授業計画	<p>第1回【4月18日】 [7つの習慣 基礎原則 人によって異なるもの見方] ・自分が考えるグローバル人材について話し合う。 ・グローバルに活躍する上で必要な原則について学ぶ。(インサイドアウト、SDG サイクル、パラダイム)</p> <p>第2回【4月25日】 同上</p> <p>第3回【5月2日】 [第1の習慣 主体性を発揮する] ・グローバル社会で重要なことは自分の軸を持ち、自分自身の主体性を発揮することを学び、実感する。(刺激と反応、自覚・想像力・良心・自由意思、自己制限パラダイム) ・行動する前に結果を思い描くことの大切さを、演習を通して学ぶ。(知的創造と物的創造、目標を設定するメリット)</p> <p>第4回【5月9日】 [第2の習慣 目的を持って始める。人生のミッションを作成する] ・グローバルという視点を持ちながら、残りの大学生活の送り方および大学卒業後の自分の理想について、自分の目標を設定する。(価値観の整理、ミッションステートメントの草案) ・留学希望者は、留学によって達成した目標を設定する。</p> <p>第5回【5月16日】 [第3の習慣 大事なことを優先する・時間管理] ・前回の授業で自分の立てた目標に対して、効果的な計画を立て、時間の使い方を意識して行動することを学ぶ。(コンパスと時計、時間管理のマトリックス、大きな石・小さな石、週間計画、ミッションと役割) ・留学希望者は、留学時の目標に対して、効果的な計画、時間の使い方を具体的に考える。</p>		

第6回【5月23日】 [7つの習慣 基礎原則 信頼残高] ・グローバル社会で通用する人間関係における信頼の築き方、その基準について学ぶ。(自己の信頼性と信頼、信頼残高)	
第7回【5月30日】 [第4の習慣 Win-Win を考える] ・人間関係を築く上で基本的な考え方を理解し、勇気を思いやりのバランスを保つことの大切さを学ぶ。(Win-Win の考え方、勇気と思いやりのバランス) ・XYゲームを通して、Win-Win の考え方を学ぶ。	
第8回【6月6日】 [第5の習慣 相手を理解する] ・真に相手を理解するには、傾聴のレベルを理解し、時に感情移入して傾聴することが必要であることを学ぶ。 ・外国人とのコミュニケーションでよくある事例、および留学時によくある事例のロールプレイを通して、その難しさを実感する。(傾聴のレベル、感情移入の傾聴、自叙伝的な反応)	
第9回【6月13日】 [第6の習慣 互いの強みを活かして相乗効果を生む] ・グローバル社会で重要な、多様性の中に違いを見出し、互いを尊重し、強みを生かし合いながら相乗効果を生むことを学ぶ。外国人と働く際の事例、および留学時の事例を演習として取り組む。(相乗効果、創造的な協力、相乗効果の障壁、第3の案)	
第10回【6月20日】 [第7の習慣 刃を研ぐ まとめ:グローバル社会を見据えて] ・自己を常に高めるための、自己管理の方法とその大切さを理解し、具体的な目標を設定する。(4つの側面) ・グローバル社会を見据えて、どのように意識を持つか、行動するかについて話し合い、7つの習慣をその武器としてどのように実践していくか考える。	
履修条件	グローバルに活躍したい、貢献したいという意思がある。
成績評価方法	出席状況、課題提出状況、レポートの提出結果と内容によって評価する。
授業外における学習方法	授業内で学んだことをできる限り1週間以内に自分自身で実践する。その際、実践した内容を記録し、必要があれば、書籍を振り返る。
教材・参考文献	・テキストは都度ハンドアウトを配布 ・書籍「完訳7つの習慣」(もしくは書籍「7つの習慣ティーンズ」)
オフィスアワー・連絡先	質問等は随時メールにて受付
履修者へのメッセージ	グループワーク、ペアワークを多く取り入れ、学生参加型の授業が中心です。ますます変化が激しくなる社会で、国内はもとより、グローバルで活躍するための「根っこ」になる考え方を学びます。スキルやテクニックも重要ですが、それを支える「根っこ」の部分を強くしたいと思う学生さんに最適な講座です。

授業科目名	アカデミック・コミュニケーション2-伝えるための基礎-		
科目番号	1G10021	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 月 2
担当教員	野村 港二		
授業概要	口頭発表の原稿と、論文の原稿は、どのように書き分けるべきでしょうか。スライドやポスターなどの効果的なデザインとはどのようなものでしょうか。そして、そもそも伝わり、分かるとは、生理学的にはどのような脳の活動なのでしょう。この講義では、専門的な内容を誰にでも伝わるように発信するという、高学年生に必要となる考え方や方法を紹介します。		
備考	(資源開設)平成23年度までの「テクニカルライティング」、および平成26年度以前に総合科目IIの1C10081 アカデミック・コミュニケーション1、1C10091 アカデミック・コミュニケーション2の単位を取得した学生の履修は認めない。【受入上限数120名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的	筑波大学は建学の理念において「筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行いあらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学」であることを宣言している。2学期には、本学の理想を実現してきた事例を紹介しながら、学術的協働のためテリトリーを越えたコミュニケーションについて考える。		
到達目標	1 専門的な内容を伝えるコミュニケーション方法を具体的に知る 2 専門家同士が、その専門を超えて協働することの重要性を知る 3 さまざまな場面での伝え方の基本を知る		
キーワード	異分野融合、プレゼンテーション、ビジュアリゼーション		
各回授業計画	<p>第1回【10月2日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [一通りに伝える] 研究の場面では、内容を正確に伝えることが大切です。一通りに伝えるためには、どんな配慮が必要なのでしょうか。</p> <p>第2回【10月10日(振替授業日) 田中佐代子 芸術系】 [サイエンスビジュアリゼーション1] 研究発表に役立つビジュアルデザインの基本を学ぶ。</p> <p>第3回【10月16日 三輪佳宏 医学医療系】 [ギャップを越えるコミュニケーション] 聞き手の「理解」と「納得」の違いについて検討し、「納得を生むコミュニケーション」の手法について考察する。</p> <p>第4回【10月23日 小林麻己人 医学医療系】 [サイエンスビジュアリゼーション2] 事例紹介を通して、なるほどと思えるスライド作りのポイントを考える。</p> <p>第5回【10月30日 武政徹 体育系】 [研究は餅は餅屋の助け合い] 目的達成のために新たな実験器具を作り出す過程で、専門家(研究者とは限らない)同士がその専門性を超えて協働することの重要性を、事例を通して紹介する。</p> <p>第6回【11月13日 野村港二 教育イニシアティブ機構】 [文字と絵] 私たちが伝えるために使う言葉、文字、絵にはどのような特性があるのでしょうか。また、伝えるための道具は、これらだけなのでしょうか。</p> <p>第7回【11月20日 池田潤 人文社会系】 [伝わる言葉とは] 音声言語と文字言語の違いを手がかりとして、テリトリーを超えて伝わる言葉とは何かについてともに考えます。</p> <p>第8回【12月4日 重松篤美】 [コミュニケーション・スタイル] 幾つかのコミュニケーション・スタイルを例として、自分のスタイル・他の人のスタイルを探り、より良いコミュニケーション手法を考えてみましょう。</p>		

	<p>第9回【12月11日 杉野一行 つくば国際大学】 [伝える事の生理学] 様々な情報が受容され認知される脳の仕組みについて。</p> <p>第10回【12月18日 杉野一行 つくば国際大学】 [分ることの生理学] 伝えられた情報を理解し、それが「腑に落ちる」脳の仕組みについて</p> <p>第11回【12月25日】 期末試験</p>
履修条件	アカデミックコミュニケーション1を履修する事が望ましい
成績評価方法	A 期末試験(70%) B 授業中の質問など積極的な発言(30%) 出席率70%以上であること
授業外における学習方法	教室で学んだ事を実践すること
教材・参考文献	1. 1. 野村港二編 研究者・学生のためのテクニカルライティング みみずく舎・医学評論社 2003
オフィスアワー・連絡先	月曜3限 生物農林学系棟 B722 nomura.koji.gb at u.tsukuba.ac.jp
履修者へのメッセージ	なし

授業科目名	世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義:社会基礎学—グローバル人材に社会が求める教養—		
科目番号	1G26031	単位数	1.0 単位
標準履修年次	3・4 年次	時間割	秋 AB 集中
担当教員	五十嵐 浩也, 佐藤 忍		
授業概要	いま世界では、新興国の急成長、産業界や市場のボーダレス化、ICT 技術の進歩などにより、人材や情報、資金が国境を越えて行きかい、同時に国や都市・地域間の競争が激化しています。一方で少子高齢化や地球規模での環境問題、資源エネルギー問題など、世界を取り巻く様々なグローバルアジェンダに対処していくことも求められています。この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、高年次の学群生を対象に、これまで学んできた教養や専門性を基礎に、社会で活躍する上において求められる総合的な基礎力や想像力、構想力、分野を超えた広い視野の向上をサポートします。		
備考	(教養教育機構企画)(教育企画室企画) 10/14,10/28,11/11,11/25,12/2 【受入上限数 200 名】		
授業形態	講義		
科目群	G		
水準・区分			
教育目的			
到達目標	1 グローバル人材、2 政治・政策、3 経済・産業、4 資源・エネルギー、5 世界/アジア、の重点 5 分野をおおむね理解する。		
キーワード	グローバル化, グローバル人材, 社会基礎学		
各回授業計画	<p>第 1 回 【10 月 14 日 三浦 潔司 JAPIC 常務理事】 [導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <hr/> <p>第 2 回 【10 月 14 日 進藤 秀夫 内閣府 大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション担当), 太田 誠 21 世紀政策研究所 事務局長, 川手 康司 みずほ銀行 産業調査部 公共・社会インフラ室長】 [パネルディスカッション] 第 1 部 グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は? 第 2 部 学生は何を学び、何を身に付けるべきか?</p> <hr/> <p>第 3 回 【10 月 28 日 野田 由美子 PwC アドバイザリー合同会社 パートナー インフラ・PPP 部門統括、都市ソリューションセンター長】 [都市ソリューションの輸出]</p> <hr/> <p>第 4 回 【10 月 28 日 佐々木 啓介 経済産業省 商務情報政策局 サービス政策課 課長】 [GDP600 兆円に向けた経済産業省の取組]</p> <hr/> <p>第 5 回 【11 月 11 日 島崎 豊丸紅 (株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長】 [総合商社の活動、国際情勢、少子高齢化の現実]</p> <hr/> <p>第 6 回 【11 月 11 日 岡部 央 (一社) 共同通信社 編集局 次長】 [日本経済の展望と課題]</p> <hr/> <p>第 7 回 【11 月 25 日 右田 彰雄 新日鉄住金 (株) 常務執行役員 人事労政部長】 [企業経営の現状・課題と戦略]</p> <hr/> <p>第 8 回 【11 月 25 日 鈴木 敦夫 防衛省 大臣官房審議官】 [日本の安全保障環境と防衛政策]</p> <hr/> <p>第 9 回 【12 月 2 日 森 民夫 前全国市長会 会長・前長岡市長】 [地方自治の視点から社会資本整備を考える]</p> <hr/> <p>第 10 回 【12 月 2 日 森 民夫 前全国市長会 会長・前長岡市長、中原 淳 首都高速度道路 (株) 取締役常務執行役員、平石 和昭 エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ (株) 副社長】 [パネルディスカッション] 社会資本整備と構造改革から見た我が国の成長戦略</p>		

	第 11 回 【12 月 16 日】 期末試験
履修条件	第 1 回授業日の 13:30 から行うオリエンテーションに必ず出席すること。
成績評価方法	出席及び期末試験の結果により評価する。なお、期末試験の方法はオリエンテーションにおいて説明する。
授業外における学習方法	各講義で紹介する。
教材・参考文献	各講義で紹介する。
オフィスアワー・連絡先	
履修者へのメッセージ	各講義で紹介する。